

むくのきだより 1月号



令和6年1月9日 港区立赤羽幼稚園 園長 中村 美奈子

新年を迎えて

園長 中村 美奈子

年の初め、東京は穏やかな日となりました。初詣や旅行、ご親戚に会いに出かけられた方、ご家族でゆっくり過ごされた方、様々かと思えます。いつもは、ゲームで遊んでいる子供も、冬休みには、凧揚げ、羽根つき、こま回し、すごろく、かるた等々、日本の正月ならではの遊びをしたということもあるでしょう。正月の遊びには、子供の元気な成長を願っているもの、縁起ものなどが多くあります。日本の文化でもあり、一人ではなく皆で遊ぶ楽しさも味わえるので、これからも伝えていきたい遊びです。12月に遊戯室に行くと、こま回しに夢中になっている子供たちに会いました。上手に回せる子供もいて、びっくりしました。

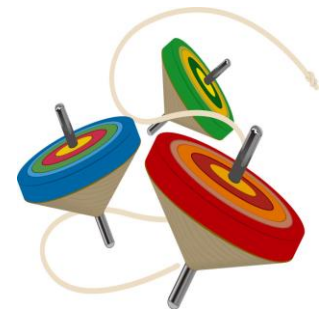
こまは、4000年前のエジプトの遺跡からも見つかったようです。日本には、奈良時代に朝鮮半島にあった高麗(高句麗)を経て伝わりました。奈良時代は貴族の遊びだったものが、江戸時代に庶民に広がったそうです。こまは、手に乗せたり、ぶつけあったり、いろいろな遊び方があるのも面白いところです。明治から昭和にかけて活躍した俳人に、こまを詠んだ句があります。

たとふれば独楽のはじける如くなり 高浜 虚子

この句は、高浜虚子が幼なじみで俳句の競争者でもあった河東碧梧桐へ送ったものです。「お互い弾けあう独楽のようによく喧嘩したな。」との思いを込めて詠んだものだそうです。幼いときに出会った二人は、時に喧嘩をし、そして仲直りをするを繰り返しながら、互いのことを理解し、仲良くなっていったのでしょう。赤羽幼稚園の子供たちも、時には思いが伝わらずぶつかることがあっても、相手の思いを受け止めたり折り合ったりしながら、よい関係を築いていってほしいです。

保護者の皆様、地域の皆様には、旧年中、本園の活動に温かいご理解とご支援をいただき、ありがとうございました。

本年も、教職員一同、子供たちの健やかな成長のため力を尽くして参ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



能登半島地震により、被害にあわれた方々に心よりお見舞いを申し上げます。

災害は、いつ、どこで起こるか分かりません。東京で起きた場合、赤羽小学校も避難所となります。地下2階及び1階に防災倉庫があり、災害用の物資が保管されています。また、園庭には災害用マンホールトイレが設置できるようになっています。毎年、芝地区総合支所と連携し、地域住民の方々と避難所設置訓練を行っています。赤羽幼稚園でも、子供たちの安全を確保し保護者の皆様に確実に引き渡しができるよう、施設の安全点検や避難訓練を重ねています。